

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、それを念頭に置いて日々のケアにあたるよう、指導・実践をしている	法人理念とともに開設当初から掲げている理念は、一度は作り直そうと検討したが、利用者の状態、状況を深く理解し利用者一人ひとりに寄り添う支援となるような指針と捉え、今後も掲げ職員全員が支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝の掃除や日中外に出る際など、また地域の回覧板などを持っていくときなど、利用者と一緒に出かけ、こちらから声を掛けるようにしている。	一昨年までは、地域の行事や祭り、コミュニティでの企画に利用者と共に参加し、民謡流しや練習、祭り、行事に参加し近隣住民との触れ合いの場は多くあった。コロナ禍で中止となり触れ合う機会は減少しているが、収束後はまた参加できる事を心待ちにしている。現時点では散歩の途中等、挨拶を交わし顔なじみの関係は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域と自治体との要望について話し合いを行っている。又認知症カフェなど、在宅介護者らに向けた取り組みも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にスタッフも参加することで、内容について意見などももらった場合積極的に反映できるようにしている。	コロナ禍で本年度は2回(11月、2月)の開催となっている。参加者も包括職員、家族、利用者、管理者、職員と限られているが、事業所の現状の報告や包括職員から情報、指導をもらい運営に反映されるよう努めている。	コロナ禍での開催の中、致し方ない面はあるが、記録の未整備、運営推進会議としての役割を今一度確認できる機会として管理者からも他事業所の会議に参加したい希望も聞かれる。今後は機会を作り参加する事で、より運営に反映されるような会議となる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時報告・相談・指導などをいただいております。また毎月の広報誌送付なども行っている。その他、認知症サポーター養成講座や家族介護支援事業などにおいても、互いに協力し取り組んでいる。	包括職員とは常日頃から相互に連絡を取り合い相談できる体制は整っている。市の担当者とは事業所が開催している認知症カフェの運営や現在は中止となっている講座や事業等必要時には相互に連携し、相談もする等関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除く一切の施錠を行わないようにしている。また、拘束とまでいかないが、活動や発言を抑制してしまうようなことが無いが、指導している。	内部研修として資料の配布や日頃の支援の中で職員同士で確認し、管理者もそのような場面には、指導、助言を行い実践の中で職員全員身体拘束しないケアは理解している。夜間を除く解錠、行動の制限はしないを基本とし、職員の見守り、気配りで利用者を見守っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員に伝達、確認してもらい、各自で意識して虐待防止に努めている。事業所研修も行った。	身体拘束とともに資料を配布し、何が拘束にあたるのか実践の場で認識できるよう、管理者は気になる言動があった職員には、その都度、声をかけるようにしている。一人の職員に過度に負担がかからないよう適切な対応が難しい場面では対応する職員が変わる事で利用者の受け入れも可能になるなど、職員間でも虐待としない対応の仕方などが根付いてきている。管理者は職員のメンタルにも注意を払い、いつでも相談できる雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついている利用者様が4名となり、職員間での理解も広がってきているが、まだまだである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書については十分な時間をかけて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とともに、普段から家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。訪問時は必ず現況報告をし、要望があった時は検討し「出来ること」は即実行している。	コロナ禍でも玄関までの面会は多く、面会時や普段からまめに事業所から家族に連絡し、家族の意見はその都度聞くようにしている。頂いた意見は時間を置かず返すようにし、できる範囲で運営に反映されるようにしている。例えば家族から薬に関する要望があり、主治医と相談し中止となる等、個々での要望も速やかに対応し家族に返すようにしており家族の信頼に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議や個別での面談を行い、定期・不定期に聞く機会を設けている。	ユニット毎に職員会議を毎週、隔週と開催し職員から積極的に意見が出され検討されている。会議に関わらず随時職員は意見を出し、各ユニットリーダーがまとめ必要に応じて管理者と相談し運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標設定と管理などにより、能力や実績の判定などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については社内での年間計画を基に、内部・外部研修を多く取り組む機会があり、社員のスキルアップを惜しまず会社ぐるみで実施している。又それ以外でも事業所独自での勉強も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に地域内や他の市町村でも、ホームへの見学や研修などの場における交流を進めるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートの活用や家族からの情報収集などで本人が安心して暮らせるように本人本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には細かく、本人、家族を含めて要望等を伺い、悩み等に関して、可能な限り力になれるよう関係性築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が何を必要としているのか細かに聞き取りを行い、他のサービスを取り入れる必要のある時は、家族と話し理解を深めて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった人になってはいるが、調理などを、手伝ってもらっている。また、畑や庭の植木などの手入れにおいては、いろいろ意見を聞いたり、作業の中心となって頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに現状についての報告や、何かあったときの相談もしながら、利用者本人を共に支えていくようにしている。認知症カフェにも参加してもらい、本音を言える環境を整えている。	受診の同行や現在はコロナ禍で中止されているが、外泊、外出、外食の支援、現在も玄関先ではあるが、面会も多くそれぞれの家族はできる範囲で本人を支えている。事業所からも3ヶ月毎におたよりとともにホームでの生活の近況、写真を送付し、本人を身近に感じてもらえるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人を迎え入れたり、又は思いの深い場所に出かけて行ったりして、本人を支えている。	コロナ禍で施設内での面会は難しいが、玄関先で親戚の方、知人、友人の方の面会や実家周辺へのドライブで懐かしい思いや、月1回程度家族の依頼により利用者と共に家に行き、ご近所の方と話す機会を作ったり、釣りが趣味の利用者と釣り堀に出かけようと企画したりと、一人ひとりの思いを大切に馴染みの場所、馴染みの人と触れ合えるよう支援している事業所である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同一フロア内だけでなく、フロアを超え、新たに利用者同士に絆が生まれるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要のある場合はお便りや電話などによる連絡を行って、継続的なつながりを維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族などから、今までの生活歴などの聴取をしたりして、どうしたいか、どうして行きたいかをつねに念頭に置いている。	入居申込書、入居判定会と段階を踏むことで利用者の情報を詳細に確認している。また、入居時に家族からもセンター方式の記入を依頼して、出来るだけ多くの情報を収集してアセスメントを実施している。日々の生活の関わりの中から見えてくる思いや意向、行動や表情を汲み取り目線を合わせて支援し、気付きや新しい情報は申し送りノートに記録して全職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの歩みをセンター方式に示し、内的体験に耳を傾け、本人のなじみの暮らしを深く知るよう努めている。	入居時に記入してもらったセンター方式の情報を基に、生活歴や馴染みの暮らし方、地域での関わり、日頃の習慣や趣味、得意な事などを把握している。前任のケアマネージャーや事業所からも情報を提供してもらい、生活環境の変化に配慮して、入居後も本人らしい暮らしが送れるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常について個々に記録して保管しており、申し送りや個別ミーティング、カンファレンスなどを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成段階や作成後にスタッフやご家族との話し合いを行って、必要であれば手直しを加えてサービスの実施をしている。	本人、家族の意向や課題、アセスメントの情報を基に、計画作成担当者が入居後1ヶ月の暫定プランを作成している。日々の生活から見えてくる必要な支援を計画作成担当者と担当職員が中心となり、全職員からの意見や提案も参考に、現状に即した介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しや課題評価を行い家族にも説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の作成とスタッフがいつでも見れる場所に置いての情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院時の福祉タクシー利用のサポート、看護体制が必要な場合の、訪問看護サービスの併用も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に運営推進会議で自治体とのネットワークを維持し、必要時には、成年後見制度導入へのサポートも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医と家族の間に必要に応じて介入して、適切な関係が続くようにサポートしている。また、通えない方に対して往診してくれる内科医、歯科医との連携も図っている。</p>	<p>本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。受診が困難な場合は往診医への移行も可能である。主治医との連携や必要に応じての情報交換も密に行われている。週1回の訪問看護師からの健康管理、24時間のオンライン、専門医への受診の助言など、適切な医療が受けられるよう支援している。診察結果や健康状態については、随時家族にも報告し共有している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションや、協力医院の看護職とも連絡できる関係もあるため、必要に応じて相談することが出来る。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や入院医療機関の担当主治医、相談員などとの連携を密にして、相談対応を行なっている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のみとりについて、家族、医師と現状と今後について話し合っ、できることと出来ないことのなかで、より良く過ごしていただけるように働きかけている。</p>	<p>入居契約時に本人、家族には「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所として出来る事、出来ない事の説明を行っている。看取りケアの経験もあり、全職員は情報を共有し、本人、家族に寄り添い、主治医、看護師、職員と連携を図りながら看取りケアをしていく方針である。また、状態に応じては病院や施設入所への推進支援も行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応に戸惑わず準備ができるよう実践力を養っている。	急変や事故発生時マニュアルの整備とともにAEDを設置し、急変時や事故発生時に備えている。個々の緊急時対応の体制も整備され職員は修得している。看護師からも助言をもらい、職員同士で練習し実践力を身に付けている。ユニット同士間で緊急時の連携体制が構築されている	日常的に起こりうる事故や急変時に備えて、具体的な実践力を全職員が身に付ける事が望まれる。継続的な研修実施に取り組まれることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と消防・自治体と連携して、災害時に迅速な避難などができるようにしている。	事業所内で年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。マニュアルの作成や避難場所、避難経路の確認等は全職員が周知している。地域住民の参加や地域が避難訓練を実施してないのが現状である。災害時に備えて非常食や水の備蓄があり、リスト化し管理されている。ユニット同士、法人内の協力体制は整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの内容、タイミング、方法など個別に対応し、記録などについては広げたままなどにしないよう注意を払っている。	利用者一人ひとりに合った言葉かけに配慮し距離感も大切に丁寧な対応を心掛けている。不適切な対応時には注意し合い振り返りも行っている。日常生活の中で慣れ合いにならないように気を付けている。排泄時の声かけにも気を配り、人格を損ねない言葉かけを行なっている。日々の記録や利用者の情報管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の何気ない言葉を聞き逃さず、できる事は実践している。また、何をすることも本人に意思確認をし柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れが入居者間で決まってしまうところがあるため、その流れも重視しなくては行けないが、そうでない人への対応もできる限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣服での外出や、なじみの美容院・床屋などはそのまま通えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好の把握とそのつどの食事時の反応などもみつつ、好みの食事に気をつけ、同時に手伝いも限られた方ではあるが、お願いしてしてもらっている。状態に合わせた分担をある程度行えている。	利用者と職員が同じテーブルを囲み会話を楽しみながらの食事となっている。食材に買い出しから、盛り付け、配膳や茶碗拭きと利用者と共にこなすことで、出来る能力を維持し、自ら手伝う環境となっている。毎日の献立はその日の材料や食べたい物を聞いてから調理している。外食や弁当、季節のメニューを取り入れたりと色々な事を企画しては食べる喜びを醸し出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事摂取量のチェックと食事内容の改善検討も行っている。水分も状態に合わせて、トロミ、ゼリーなど形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室での口腔ケアだけでなく、状態に合わせて食堂脇の洗面所で口腔ケアをしていただいたり、介助も行ったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンについて把握に努め、トイレへの誘導の声掛けなども工夫して行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、パターンに合わせて誘導しトイレで排泄できるよう支援に努めている。一人ひとりの習慣や身体機能を理解し適切な支援が出来るように全職員が統一した介護方法を修得している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の対応について、医師の意見も取り入れて、改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでもという訳にはいかないものの、午前中から夕方までの間で、利用者の希望の入浴時間で言葉かけをしている。	午前中から夕方までの間で週2回以上は入浴できるようになっている。希望があれば何回でも入浴は可能になっている。拒否がある方には無理強いをせず工夫して対応し入浴できるように支援している。浴室内の冷暖房、手すりや補助具も整備され、安全に入浴できるようになっている。入浴剤や変わり湯なども提供し気持ちよく入浴ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に捉われず、本人の生活習慣やその時の身体状況を見ながら休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬について内容を職員の身近にファイルしており、いつでも確認できるようにしている。また、必要に応じてカンファレンスなどにも取り上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯もの、食事の準備など、能力に合わせた分担がある程度機能している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や玄関脇の花壇など、天候や気分に合わせてできる限りの支援をしている。外出レクリエーションだけでなく、家族との外出時にも必要な情報の提供や準備に対応して、気軽に出かけられるように配慮している。	日常的に屋外に出かけ、外の空気に触れることで気分転換を図っている。季節の行事やドライブ、買い物や散歩、認知症カフェなどに出かけ様々な視点から楽しめるように企画している。また、家族との外出や担当職員と二人での外出支援もある。年に数回大きなイベントを企画して家族や事業所、ボランティアや近隣の方にも声かけをし食事やゲームなど楽しい時間を提供している。外出時には写真を撮りホールに飾ったり、お便りに載せて家族にも配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個室内で金銭を置くことのできる方は限られているが、外出時などはきちんとお金を本人から渡してもらうように支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、季節に応じた手紙を出せる支援を行っている。また、必要に応じて電話の介助などおこなっており、要望に応じた対応が出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けや生花なども飾っている。ソファやいすなども様々な場所に配置し、好きな場所で好きなように過ごしてもらっている。	共有空間は広くて窓から射し込む日光も心地良く明るい。ホール内は利用者と共に創った季節の飾りつけや写真を貼り楽しめる工夫をしている。ホール内の所々にソファを置き、一人ひとりが好きな場所で寛げるようになっている。事業所内は体感温度に合わせて温度調節に配慮されており、常に職員が居てお話ししたり見守ったりと、目配り気配りがあり安心できる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れるソファや、手作業の出来るスペースであったり、環境に左右されずに、思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみの品物をよういしていただくように、入居前から家族には伝えてある。しかしながら、状況や本人の状態から難しいケースもある。	居室には馴染みの物の持ち込みは自由である。生活様式が大きく変化しないようその人らしい居室作りに配慮している。部屋の掃除は基本職員が行っているが、利用者からも出来る範囲で作業をしてもらい、出来る能力を維持し、自立した生活が送れるように支援している。状態に応じ居室の環境作りを見直し、生活空間を広くして動きやすい工夫を提案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境面に危険はないかチェックするとともに、利用者の活動しやすい環境を整え対応している。		